



博物館資料のジャパンサーチ 掲載と学芸員実習における 活用事例

齊藤 有里加（東京農工大学科学博物館 特任助教）



この資料は、クリエイティブ・コモンズ表示4.0国際ライセンスの下に提供されています。

東京農工大学科学博物館と学術資料

- 工学部の中にある「蚕糸学術コレクション」
誰も工学部に「蚕」の「浮世絵」コレクションがあると思わない！



教育・研究機関が内包する「学術資料」は、組織統合などの変遷により資料が埋没化しやすく、単独での資料公開には発信に限界がある。→横断検索型ポータルとの連携の必要性



一次資料の被災、データの破損などを回避する意味でも、ウェブ上にデータを公開する意義がある。

2020年10月ジャパンサーチへの連携開始



回転 0 ▾

画面にフィット

全画面

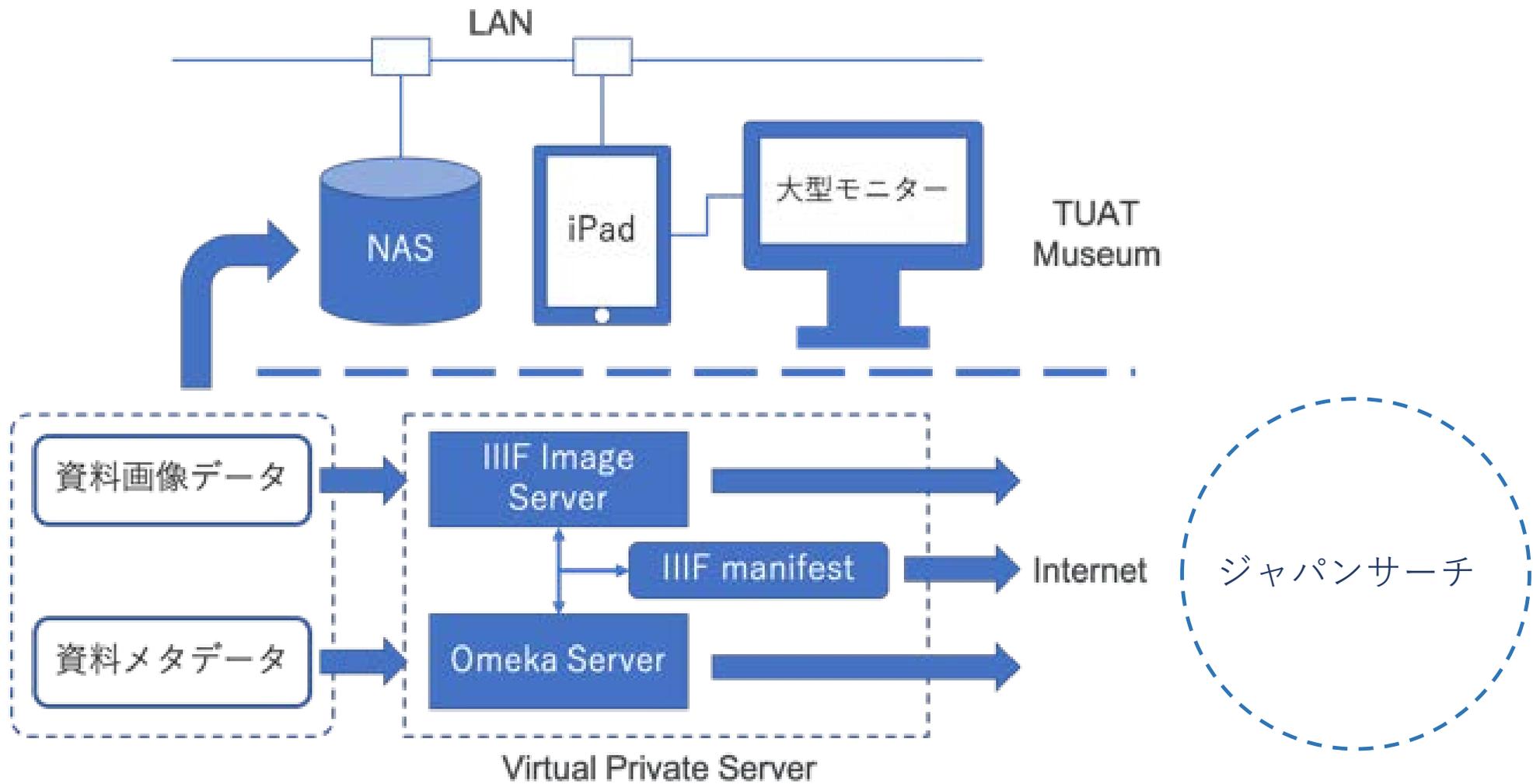
CC BY-NC-SA (表示-非営利-継承)

東京農工大学科学博物館デジタルアーカイブ蚕糸学術コレクション

蚕織錦絵コレクション

収録元データベースで開く

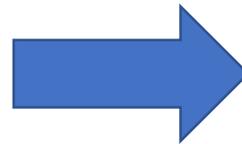
故鈴木三郎名誉教授寄贈、博物館所蔵から成る400点余りの錦絵資料。蚕織錦絵は主に蚕の孵化、採桑から製糸、製織、布選びに至る一連を含んでいる組絵や多くの工程を1枚にまとめたものを指しますが、ここでは各作業が単体で制作されたものも含まれています。蚕織錦絵の原点は楼璣(ろうちゅう)が南宋の皇帝高宗に献上した「耕篇21景」及び「織篇24景」からなる「耕織図」にあります。これを基に橋守国が描いた「絵本直指宝(ねざしたから)」が制作され、多色刷りの勝川春草と北尾重政による12枚一組の「かみこやしなひ草」、喜多川歌麿による「女織蚕手業草」へと連なります。さらにこのモチーフは多くの絵師によって明治期まで用いられることで、様々な錦絵の様式を内包し時代ごとに変化に富んだ作品が見られるのが特徴です。「蚕織錦絵」という用語は製糸学を専門としながら、学生時代より錦絵の収集を続けてきた故鈴木三郎名誉教授によるものです。私家版「絵で見る製糸技法の



システム構成

COVID-19を背景とする学芸員実習授業のオンライン転換

~~対面での教育普及イベント
複数での資料整理作業~~



これまでの実習でできな
かった資料データの活用、
デジタルの取り扱いへの着
手を試みた

ジャパンサーチ「ワーク機能」を使った学芸員実習を実施

- 授業目的：「ワーク機能」による展示の擬似体験
デジタルアーカイブの特性の理解
- 授業期間：2020年10月～11月のうち2日間

ジャパンサーチ解説と操作説明

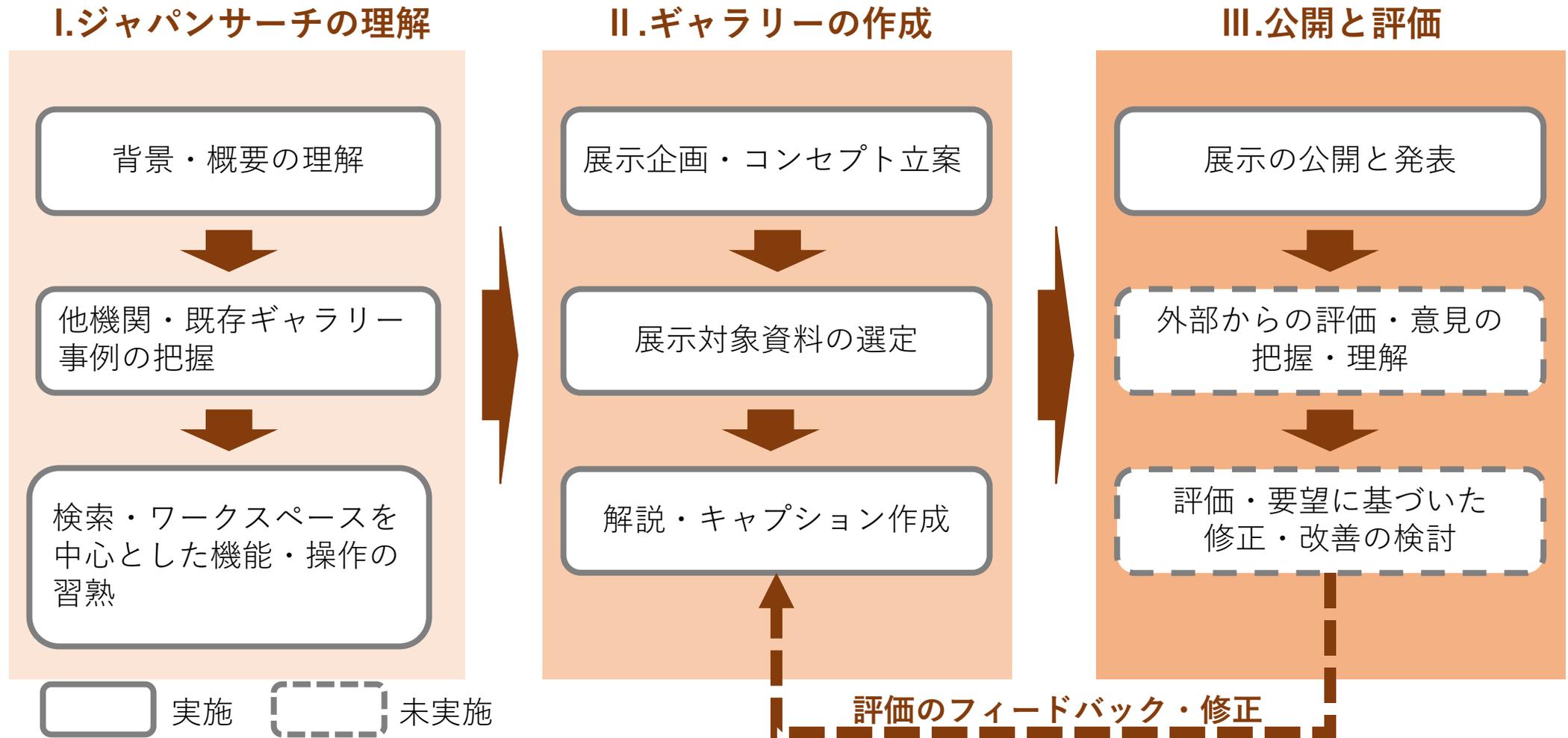
「ワーク機能」によるギャラリー作成とオンライン発表

※2日間の間には各自のテーマを探し、アカウント接続と操作体験をする課題を出した

- 農学部学生・工学部学生 9名
- 担当教員 齊藤有里加¹ 堀井洋² 堀井美里²
ゲスト講師 小川歩美²

1) 東京農工大学 2) 合同会社AMANE

デジタル展示構築の流れ



“サンプルギャラリー”による機能説明

JAPAN SEARCH

検索キーワードを入力



TUATMUSEUM@東京農工大学科学博物館

最初のノート

トップ ▶ ワークスペース ▶ 東京農工大学博物館実習2020 ▶ テスト_機能説明



美人養蚕ノ図 3枚綴 / 東京農工大学科学博物館

受講者制作ギャラリー



日本人と雪

このギャラリーでは、「日本人と雪」に関連する作品を紹介します。



ギャラリー:錦絵で見る明治の建築

現代になっても目を引く美しい明治の擬洋風建築を錦絵で紹介します。



のギャラリー:日本人とキツネ

日本の文化におけるキツネの姿



伊豆

伊豆に関するコンテンツ(絵画、写真、地図、動画)を紹介します。



のギャラリー

絵画に登場する日本の野鳥



のギャラリー:根付

根付とは、江戸時代に、印籠などを腰から下げる際に、紐の端に取り付け、帯にくぐらせて外に出すことで滑り止めにするハコ形の細工物のことです。木や象牙、角、金



ギャラリー:蚕だらけ

農工大資料の代名詞ともいえる蚕。彼らが登場する日本の歴史資料を紹介します。



日本の妖怪コレクション

日本の妖怪にまつわる作品を集めました。

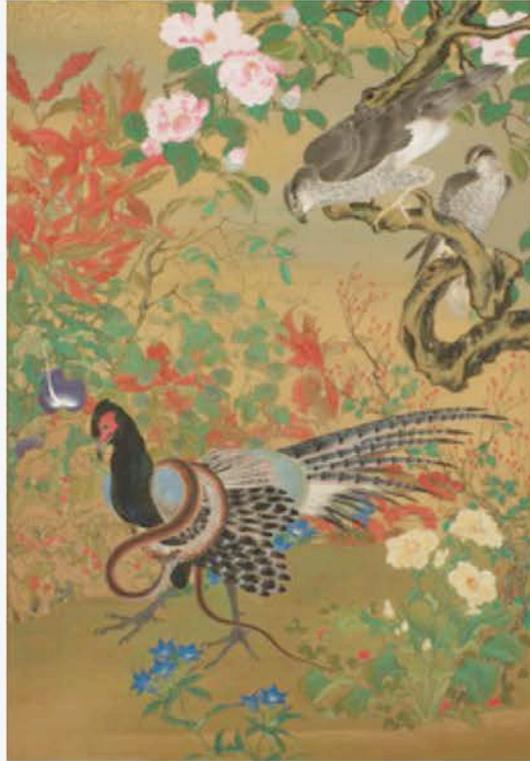
妖怪



日本人と化粧

日本人と化粧の関わりを紹介します。





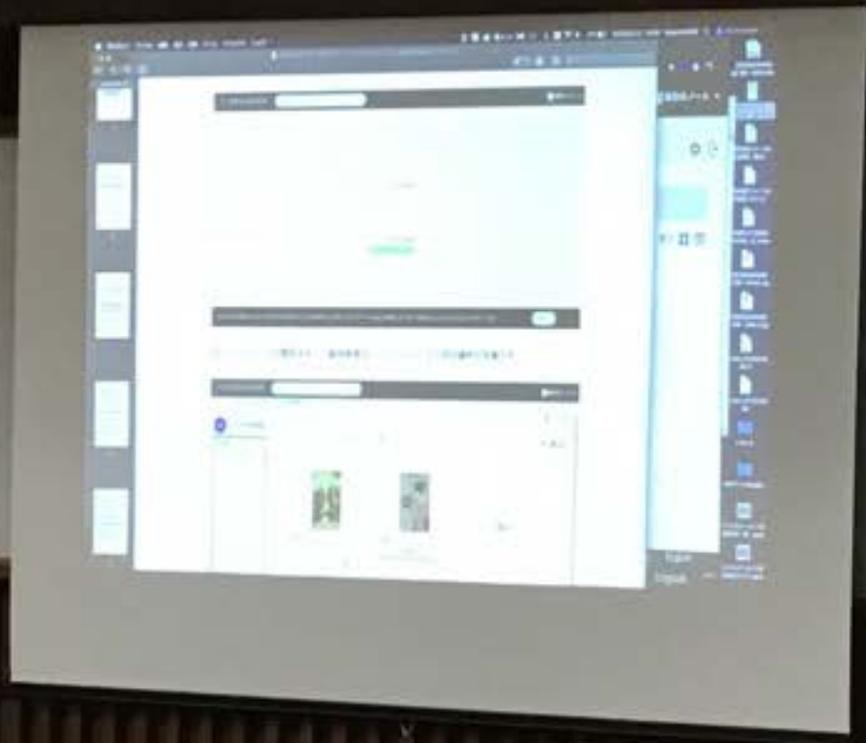
花鳥図 / 東京国立博物館

佐藤のギャラリー

絵画に登場する日本の野鳥

自然物





ワークスペース機能の良い点（学生コメント）

- ・豊富な編集機能を用いて自由度の高いギャラリーを製作できる
- ・博物館における実際の展示設計にも応用可能なテーマ設定やシナリオ作成を実践することができた。
- ・国内の膨大な量のデジタルアーカイブを検索できる点が良かった
- ・理系の学生である私たちが普段の関わりの薄い美術品が多かったのが新鮮だった
- ・資料を探す過程で普段見る機会のない仕様も色々見ることもできた。
- ・資料借用の複雑な過程がなく、気になったデータをまとめる手軽さが良い。
- ・一つの企画展の構成を考えているような感覚でいかにストーリー性を持たせて資料を組み合わせるかという部分を考えた。

ワークスペース機能を使用した際の 改善点（学生コメント）

- ・ 製作者の個性が反映されるため楽しく実習できた一方、発信者としての責任も感じた。
- ・ 調べたい内容に対して、どのようなワードで検索するかはかなり重要。コツの表記があったら。
- ・ 求める情報にたどり着くまでが困難。これから利便性が高くなると良い
- ・ ジャパンサーチと連携していない機関の資料を使用したかった場合が多々あった。

ワークスペース機能に対する感想・意見 (学生コメント)

- データベース上の資料間に新たなつながりを見せる点に意義がある
- 空間的な制約なしに並べることができるのがデジタルアーカイブの長所
- 一般の人も（ワークスペースを）利用できるようになったら楽しい
- 現在実施中の企画展作品の一部をギャラリーで展示すればどうか特に小さな博物館に有効
- 他分野の議論を加速する存在

ジャパンサーチの学芸員実習活用の利点

- ・資料を使って「何を伝えるか？」についての視点を共有できる。
展示企画の擬似体験
- ・データの「引用」の視点を共有



**目録制作、撮影など資料整理中心だった学芸員実習
→資料活用視点での課題が議論できるようになった。**

担当者から見る、ジャパンサーチの使い勝手

- ・引用がすぐに拾えて助かる
- ・自館資料の検索・閲覧機能が強化されていたら積極的に資料を掲載するモチベーションになる。
- ・外国語機能の強化があったら嬉しい
- ・ジャパンサーチへの紐付けの簡易化
- ・ワーク機能は他の人とのディスカッションに有効。声をかけるためにも、わかりやすい操作説明が欲しい

課題：掲載した後、どうしたらコレクションへの検索数が増えるのか？

ジャパンサーチ活用のさらなる展望

1. 繭標本資料の追加準備
2. ジャパンサーチを活用した学芸員実習の継続
3. デジタルアーカイブに関する利用者の反応評価し、
ジャパンサーチとのさらなる連携の検討の実施

資料アクセス活性化に向けた今後の展開

蚕織錦絵コレクション内のデジタルデータを活用した
「あつまれどうぶつの森」における着物の復元と大学博物館連携イベントでの活用

→いろいろな形で資料へのアクセスの機会を増やしたい。

UMAC-UNIVERSEUM 2021/2021/9/1 Session 3: COVID
Networkingにて企画紹介



TUAT museum
(Supported by AMANE.LLC)



Joshihi Art Museum (JAM),



着物のマイデザインは
こちら

開催予定のイベント

2021年10月8日金曜日

AMANE・東京農工大学科学博物館連携記念シンポジウム

—新しいかたちの連携による大学博物館資料のデジタル化・発信を考える—

→ <https://fb.me/e/2JVNoK2rA>



2021年10月25日月曜日

あつ森で語ろう！農工大×AMANE×女子美コラボイベント

近日公開予定！！

